

人間科学研究所 2013年度連続企画
アドバンスト研究セミナー 第2回概要

11月8日(金) 13:00~14:30 学而館2F第1研究会室

ソーシャル・キャピタルと健康
—近年の研究動向と課題

報告者：藤澤 由和

報告者プロフィール

藤澤由和（ふじさわ よしかず）静岡県立大学 経営情報学部/静岡県立大学大学院 イノベーション研究科准教授。社会学（医療社会学）、公衆衛生学（公共健康学）、政策研究（社会政策・医療政策）をご専門とされ、ソーシャル・キャピタル、サービス評価、データ構築法等をテーマに研究を行っていらっしゃいます。

【業績】◆「地区単位のソーシャル・キャピタルが主観的健康感に及ぼす影響」（共著）厚生学の指標 54(2) 2007. ◆『ソーシャル・キャピタルと健康』（共訳、日本評論社、2008）◆“Social capital and psychological distress of elderly in Japanese rural communities”（共著）*Stress and Health* 27(2) 2011. ◆“Contributions of Social Context to Blood Pressure: Findings from a Multilevel Analysis of Social Capital and Systolic Blood Pressure”（共著）*American Journal of Hypertension* 24(6) 2011. 他、多数。

コメンテーター：筒井 淳也（産業社会学部 教授）

司 会：松田 亮三（産業社会学部 教授）

* 使用言語：日本語

報告者より

ソーシャル・キャピタルと健康の関連性に関しては、これまで多くの先行研究がなされてきており、この過去15年間には、かなりの数のエビデンスが蓄積されてきました。しかし「ソーシャル・キャピタルが『どのように』健康に影響を及ぼすのか」という点に関しては、複数の仮説が提示されていますが、未だ明確なものは示されていません。

両者の関係性メカニズムを解明するためには、乗り越えなければならない幾つもの課題があると考えられますが、一つの方策として、社会地区類型（ジオデモグラフィックス）を用いた検討が考えられます。社会地区類型（ジオデモグラフィックス）とは、主にマーケティング分野において開発されてきたツールですが、イングランドなどにおいては、こうしたツールを健康分野に応用する試みも見られます。今回のセミナーでは、この社会地区類型（ジオデモグラフィックス）を用いたデータ構築とその検討の結果を提示し、ソーシャル・キャピタルと健康の関係性メカニズム解明にどのように寄与しうるかという点を中心に議論を行いたいと考えています。

参加無料 事前申込不要

主催：立命館大学 人間科学研究所 E-mail: ningen@st.ritsumei.ac.jp